

栗生のおも講と堂徒式

栗生のおも講と堂徒式は、国の重要無形民俗文化財に指定されている伝統行事です。去る2月18日（日）に吉祥寺薬師堂（国指定重要文化財建造物）とその周辺において行われました。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響で休止しており、4年ぶりの開催となりました。

この行事は、おも講と堂徒式からなります。おも講は、栗生区の12軒の家で構成された講員と吉祥寺住職が集まり、「岩倉大明神」と「薬師如来・観音菩薩・大日如来」の掛け軸を前に座して祈祷し、ご飯を一箸ずつ食べ、お神酒を飲んだ後に懇談が始まります。おも講は、かつては村の取り決めなどの評議が行われたと伝わります。

13時ごろには薬師堂において堂徒式が始まります。堂徒式は、おも講の講員と吉祥寺住職、数え3歳児とその親族が参加し、子どもの村入りを講員が承認するとともに、その成長と健康を祈願する行事です。今回は、数え3歳児に加え、休止期間中の子どもたちを含む11人を対象に行われました。式は、住職による読経の後、子どもたちの名前が読み上げられ、住職が杖を用いて香水（仏前に

供えた水）を子どもの頭上に垂らします。その後、講員と住職が二列に並んで向き合って座った中を、紋付羽織袴で正装した子どもたちの父親が接待する形で進行しますが、式の間は無言で進められます。まず、葉付の大根・煮大豆・酒粕を載せた膳（杉丸太を割った粗削りの板）を頭上に掲げて講員に配膳します。その次に桶と盃を載せた三方を頭上に掲げ、三三九度で酌をしていきます。最後に串柿・挟み餅・牛玉宝印（寺社が発行する厄除けの護符・ゴウ紙と呼ばれる）・薬師堂の護符をそれぞれ頭上に掲げて配り、式は終了となります。

村入り行事は、日本各地で見られますが、栗生のおも講と堂徒式の起源は室町時代に遡り、堂徒式は席順や服装、式次第などが厳重に決められているなど、かつての年頭行事を今に伝える貴重な文化遺産です。



堂徒式